見て、触れて、食べて、「食」を学びました
親子で稲刈り体験と流しうどん

8月20日にJA西三河西部センター（西小栁町）と周辺の田んぼで、市食育推進事業「親子で稲刈り体験と流しうどん」が行われました。参加した16組の親子は、講師のJA西三河稲作青年部員から作業の説明を受けた後、手鎌を使い、稲刈りを体験。慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、親子で協力して作業を進めました。稲刈りの後は、愛知県産小麦の新品種「きぬあかり」を使ったうどんで流しうどんを実施し、参加者からは「おいしい！」という声が聞こえてきました。

自然の中でのびのびと
夏休み こどもだけで行くデイキャンプ

小学3～6年生を対象とした「夏休み　こどもだけで行くデイキャンプ」が8月18日、愛知県青年の家（岡崎市美合町）で行われました。4班に分かれた参加者21人は、大学生ボランティアなどの指導を受けながら火を起こした後、具がたっぷりのカレーライスを調理。出来上がった熱々のカレーライスを口いっぱいに頬張っていました。おなかを満たした後は、竹を使って水鉄砲を製作。苦労して完成させると、的を目掛けてうれしそうに打っていました。

カラフルな風船が変幻自在
バルーンであそぼ

夏真っ盛りの8月9日に、吉良町公民館で「バルーンであそぼ」講座が行われ、小学生のお子さんとその保護者18人が参加しました。色とりどりの風船を膨らませて、ひねったり、曲げたり、組み合わせたりすると、オリジナルの弓矢と的が完成。風船の矢を飛ばして遊んでいました。途中、風船が一部割れてしまい、ちょっと落ち込んでしまった子もいましたが、講師がその風船を使って即興で作った輪っかを頭に被せてもらうと、すぐ笑顔になっていました。

干潟の環境を体感
三河湾環境再生体験会

県主催の三河湾環境再生体験会が8月20日、東幡豆海岸と前島で開催されました。トンボロ干潟の上を歩いて前島まで移動した参加者は、東幡豆漁業協同組合の職員から干潟について説明を受けた後、アサリの稚貝の放流や干潟の生き物の採取などを体験し、干潟の環境を守ることの大切さを学びました。参加した子どもたちは、干潟でハマグリやマテガイを見つけると、うれしそうに家族に見せていました。

市無形民俗文化財
貝吹のかぎ万燈

貝吹のかぎ万燈が８月14日、貝吹町の万灯山で行われました。昔、この山であった僧兵の戦いの犠牲者の霊を弔うために万燈をたいたのが始まりで、約900年の歴史を持つと伝えられます。午後８時30分ごろ、ほら貝を吹く音を合図に、山の西側斜面に並べられた108基の「スズミ」に点火されました。西尾の東の空に「かぎ」形の火文字が次第にくっきりと浮かび上がってくる様子を、多くの人が見物していました。

大輪の花がお盆の夜を彩る
米津の川まつり

８月15日に矢作川の米津橋下流で、第68回米津の川まつりが行われました。米津小学校マーチングバンドの演奏の後、万灯流しが行われ、戦没者や水難者の供養に大勢の人が手を合わせました。花火大会では、約3,000発の打ち上げ花火と仕掛け花火が夜空を彩り、スターマインなどの花火が打ち上がるたびに、歓声が沸き起こりました。お盆の夜空に咲いた色とりどりの花火に大勢の観衆が酔いしれていました。

年に１度ハワイになるまち、吉良
ハワイアンフェスティバル

８月22日～27日、2016ハワイアンフェスティバルin吉良ワイキキビーチが開催されました。フラの発表会「ホイケ」には、愛知県を中心に岐阜県、三重県、静岡県、富山県などから延べ約40のグループの参加がありました。24日には兵庫県赤穂市と山形県米沢市のグループも参加。それぞれの市長や副市長も駆けつけ、西尾市の人々と交友を深めていました。本場ハワイのグループによるポリネシア・フラダンスショーも連日、大盛況。吉良がハワイになった６日間でした。

漆黒の夜空に浮かぶ古色豊かな時代絵巻
三河一色大提灯まつり

三河一色大提灯まつりが８月26日・27日の両日、一色町の諏訪神社で開催されました。26日の午前中からは「おもてなし大学ツアー」の参加者が祭りの準備を体験。６組の氏子たちがカグラサンと呼ばれる万力を使い、最大で長さ10m、直径5.6mもある大提灯12張をつり上げました。午後７時からは献燈祭が行われ、最大で重さ80kg以上の巨大ろうそくに御神火を移し、献灯。提灯の中につるされると時代絵巻が漆黒の夜空に浮かび上がり、祭りを楽しむ境内の雰囲気は最高潮に達しました。